

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)セルアーージュ小田原 新築工事	階数	地上10F
建設地	小田原市栄町2丁目153-4外	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	105 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年06月30日 予定	評価の実施日	2023年12月01日
敷地面積	657 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社DAN都市デザイン
建築面積	350 m <sup>2</sup>	確認日	2023年12月08日
延床面積	2,819 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社DAN都市デザイン



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み: 82% (37 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の: 82% (37 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

④上記+: 82% (37 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.9**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

**LR のスコア = 3.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> JR線小田原駅から徒歩で約7分の商業地域に共同住宅を計画した。		<b>その他</b> 特になし。
<b>Q1 室内環境</b> 開口部遮音性能:T-2以上。 JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	<b>Q2 サービス性能</b> 各住戸または各客室にGbitクラスのブロードバンドが利用可能な環境が整備されている。 日本住宅性能表示基準「3.劣化の軽減に関すること」で等級3相当。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 植栽により、良好な景観を形成している。
<b>LR1 エネルギー</b> 日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。 BEI=0.94、LED照明設備を導入。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 「躯体+軽鉄+仕上げ材」により、躯体と仕上げ材が容易に分別可能。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用している。	<b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率82%

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される